

3月2日(日)

令和7年度 B日程入学試験問題
文学部（史学科）

地 理 歴 史

— 注意事項 —

- 1 問題は1ページから8ページ、解答用紙は1枚である。
- 2 **1** ～ **5** のうち1題を選んで解答すること。
- 3 解答はすべて解答用紙に記述すること。解答用紙に受験番号と氏名を記入し、選択した問題番号を必ず○印で囲むこと。
- 4 試験時間は60分である。

日 本 史

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

鎌倉時代初めの摂関家出身の高僧慈円は歴史書『1』のなかで、10世紀前半までの政治を「2 マデハ君臣合体魚水ノ儀マコトニメデタシトミュ」と述べ、醍醐天皇・村上天皇の時代には (A)摂政・(B)関白がおかれずに、天皇と臣下が一体となって政治を行っていたと高く評価した。両天皇の治世は後世「2 の治」と呼ばれて、たたえられた。10世紀後半以降の政治については「冷泉院ノ御後、ヒシト天下ハ執政臣ニツキタリトミュ。ソレニトリテ御堂マデハ^{みどう}摂^{せつろく}録ノ御心ノ、時ノ君ヲオモイアナヅリマイラスル心ノサワサワトナクテ、君ノアシクヲハシマス事ヲバメデタク^{もうし}申ナヲシナヲシテヲハシマス」と記し、藤原実頼が冷泉天皇の関白となってからは、摂政・関白が政治の実権を握ったこと、後一条天皇の摂政3の時代までは摂政・関白が天皇を軽んずる気持ちを持たずに、天皇の悪い行いに対してもそれをうまく修正していたと述べている。

11世紀後半の白河天皇は、堀河天皇に譲位した後も政治の実権を握った。慈円は「白河院ノ後、ヒシト4 天皇ノ御心ノホカニ、臣下トイフモノ、センニタツ事ノナクテ」、すなわち、白河上皇以後は、譲位した天皇（4 天皇）の意向どおりに政治が行われ、摂政・関白などの臣下が先頭に立つことはなかったと記している。この (C)院政とよばれる政治形態は江戸時代まで続いた。

そして慈円にとっての今の政治について「今ハ又武者ノイデキテ、5 トテ君ト摂録ノ家トヲオシコメテ世ヲトリタルコトノ、世ノハテニハ^{はべる}侍ホドニ、此武将ヲミナウシナイハテ、(中略)ソノ5 ニハ摂録ノ臣ノ家ノ君公ヲナサレヌル事ノ、イカニモイカニモ宗廟^{そうびょうしん}神ノ、^{なお}猶君臣合体シテ昔ニカヘリテ、世ヲシバシヲサメントヲボシメシタルニテ侍レバ」と記している。鎌倉幕府の5 が天皇と摂関家を押し込めて政治の実権を握っていることは世も末であるが、5 が皆亡くなって、その5 に摂関家の子弟である三寅（のちの6）が擁立されたことは、祖神が君臣合体の昔に戻って世を治めようとなさっていると捉えているのである。

問1 空欄1～6に入るのに最もふさわしい語句・人名を、解答欄(1)～(6)にそれぞれ漢字で記しなさい。

問2 平安時代の下線部（A）と下線部（B）の違いについて、80字以内で説明しなさい。

問3 下線部（C）について、次の語句をすべて用いて400字以内で説明しなさい。なお、語句はどの順番で何度用いても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。（例：1247年には宝治合戦が起こった。）

北面の武士	堀河天皇	院評定衆	院庁下文	六勝寺
院の近臣	治天の君	院分国	幼帝	人事権

日 本 史

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

近現代の日本は、いくつかの対外戦争を戦ってきた。

初の本格的な対外戦争となったのは、1894年に始まった日清戦争であった。戦争は日本の勝利に終わり、1895年には が調印された。清は朝鮮の独立を認めたほか、遼東半島・台湾・澎湖諸島を日本に譲り、賠償金も支払った。ただし、三国干渉によって、日本は遼東半島の領有を放棄することになり、国内ではロシアに対する敵意が高まった。他方、日清戦争によって藩閥政府と政党との関係も変化した。

1900年の北清事変を機にロシアが満洲を事実上占領すると、朝鮮半島を自己の勢力圏としたい日本側の危機感が高まった。ロシアの影響力が朝鮮半島においても高まるなかで日露関係は緊迫化していき、1904年の日露戦争に至る。

日露戦争も日本の勝利に終わったが、日清戦争と比べて多くの人命が失われ、また多大の国費が投じられた。日本軍の戦死者数に限っても、日清戦争では約14万人、日露戦争ではそれを大きく上回る約8.5万人が戦死した。日露戦争では韓国における日本の指導権・監督権や南満洲における鉄道利権、北緯50度以南の と付属諸島などを得たが、賠償金が得られなかった。戦費をまかなうための増税に堪えかねていた国民の不満は という暴動に発展した。なお、暴動のきっかけとなった講和条約反対国民大会に憲政本党の議員は参加していたが、立憲政友会は政権の授受を条件に内閣と協力関係を結んでいたため、暴動には加わらず、沈静化を図った。

日露戦争後、全国各地の主に都市部でたびたび民衆暴動が起きた。暴動への参加者には選挙権を持たない民衆も含まれており、暴動が政治を動かす場面もあった。その一つが第3次桂太郎内閣を倒した であった。

ヨーロッパ大陸が中心だった第一次世界大戦（1914～1918年）で、(A)日本は中国進出への足がかりを得ようとし、第2次大隈重信内閣が北京の袁世凱政権に対して二十一カ条の要求を突きつけた。1917年にロシア革命が起きた後はシベリアに出兵し、革命へ干渉しようとした。1922年まで続いた出兵では3000人を超える戦死者が出た。

シベリア出兵の影響で起きた1918年の米騒動は 内閣を退陣に追い込み、初の本格的政党内閣である原敬政友会内閣が成立するに至る。さらに1924年に成立した加藤高明内閣によって、いわゆる普通選挙法が成立した。以降、(B)犬養毅政友会内閣まで政党総裁が首相となる政党内閣の時

代が続くことになった。しかし、1931年に関東軍が引き起こした満洲事変により国際情勢は急転し、政党内閣も倒れた。

満洲事変後の日本は、第一次世界大戦後に成立した国際秩序への挑戦者として振る舞った。日本は中国におけるさらなる勢力圏拡張を図るが、中国側では抗日救国運動が高まり、1937年には日中戦争に発展して泥沼化していく。1939年にはドイツのポーランド侵攻により第二次世界大戦が始まり、ドイツがヨーロッパを席卷するなか、1940年9月には従来からの関係を発展させる形で 6 が結ばれた。

1941年に日本は米英に宣戦を布告し、太平洋戦争が始まった。緒戦こそ日本の勝利が続いたが、戦況は徐々に悪化し、1945年8月14日に日本はポツダム宣言の受諾を決めた。1937年以降の日本の戦没者数は民間人も含めると約310万人に及び、死者数はそれ以前の戦争の比ではなかった。そして、中国はじめアジア諸地域における犠牲者はこれを遙かに上回るものとなった。

太平洋戦争の敗戦から80年を迎える2025年、戦争を体験した人々は極めて少なくなった。だからこそ、過去の戦争の歴史を、様々な史料に基づいて着実かつ多面的・多角的に検証し、未来に活かしていくことがよりいっそう重要になるだろう。

問1 空欄 1 ～ 6 へ入るのに最もふさわしい語句・人名・地名を、解答欄(1)～(6)にそれぞれ送り仮名を除いて漢字で記しなさい。

問2 下線部(A)に関して、二十一カ条の要求の内容及び中国側の反応を80字以内で説明しなさい。

問3 下線部(B)に関して、大日本帝国憲法の成立から普通選挙法の成立に至る政党政治の発展の歴史を、本文中の政党に関する叙述と関連づけながら、次の語句をすべて用いて400字以内で説明しなさい。なお、語句はどの順番で何度用いても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。(例：1873年には明治六年の政変が起こった。)

超然主義	桂園時代	第2次伊藤博文内閣	立憲政友会
民本主義	普選運動	第2次護憲運動	

世 界 史

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

元朝末期、経済の混乱と飢饉の被害が広がるなかで白蓮教が流行し、1 の乱が起こった。その指導者の一人であった 2 は1368年に現在の南京を都として明を建国し、元の残存勢力を万里の長城の北方に追いやった。明の建国後、2 は洪武帝として即位し、3 省を廃止して六部を皇帝に直属させ、皇帝独裁体制を確立しようとした。また、(A) 人民に対する支配についても厳しい統制を行なった。

洪武帝の死後、孫の 4 帝が即位した。しかし、その叔父にあたる燕王が 4 帝の進める政策に反発して 5 の役を起し、帝位を奪取して永楽帝として即位した。1421年、永楽帝は自分の本拠地であった北京に遷都し、支配を強化しようとした。さらに永楽帝は皇帝を補佐する職務として 6 を設け、重要政務に参加させた。(B) 永楽帝は対外関係においても積極政策を展開し、明の国際的地位を向上させようとした。

問1 空欄 1 ～ 6 に入るのに最もふさわしい語句・人名を、解答欄(1)～(6)にそれぞれ記しなさい。

問2 下線部(A)について、洪武帝時代の人民支配の具体策について、あなたの知るところを80字以内で説明しなさい。

問3 下線部(B)に関連して、明をめぐる国際情勢とそれに対応する明の対外政策について、次の語句をすべて用いて400字以内で説明しなさい。なお、語句は、どの順番で何度使用しても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。(例：1842年、清はイギリスとの間に南京条約を締結した。)

前期倭寇

海禁

鄭和

勘合貿易

土木の変

アルタン＝ハン

後期倭寇

北虜南倭

豊臣秀吉

女真

世 界 史

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

1873年にウィーンではじまった恐慌は、19世紀末にかけて世界的な不況をもたらした。ヨーロッパ各国は、自国と海外の経済と利害の保護をめざして対立するようになった。なかでも 戦争の勝利を機に統一を果たしたドイツは、宰相 の下で積極的な工業化を進めてヨーロッパ第1の工業国に成長した。対外的には、1882年に と三国同盟を結んで中東欧の結束を示し、1884年にはアフリカの領有をめぐるヨーロッパ各国の対立を収拾するために 会議を主催して、ドイツの存在感を高めた。

が辞職した後、ドイツ皇帝 は「世界政策」を掲げて野心的な海外膨張策に乗り出し、ヨーロッパ各国に警戒感を与えた。20世紀初頭には、東西の大国が (A) 三国協商 を形成するなかで、ドイツの軍備増強と拡張政策はヨーロッパの国際関係の不安定要素となった。

1914年6月、バルカンのサラエヴォで起きた事件をきっかけにおこったオーストリアと との局地的な対立は、ドイツを取り巻くヨーロッパ各国の思惑が作用して、第一次世界大戦に拡大することになる。

- 問1 (1) 空欄 に入るのに最もふさわしい語を、解答欄(1)に記しなさい。
- (2) 空欄 に入るのに最もふさわしい人名を、解答欄(2)に記しなさい。
- (3) 空欄 に入るのに最もふさわしい国名を 2つ、解答欄(3)に記しなさい。
- (4) 空欄 に入るのに最もふさわしい語を、解答欄(4)に記しなさい。
- (5) 空欄 に入るのに最もふさわしい皇帝名を、解答欄(5)に記しなさい。
- (6) 空欄 に入るのに最もふさわしい国名を、解答欄(6)に記しなさい。

- 問2 下線部(A)について、この協商を構成した3つの国を明示して、これが形成された経緯を80字以内で説明しなさい。

問3 上の文章を受けて、第一次世界大戦の開始から終戦に至るまでの経緯を、次の語句をすべて用いて、400字以内で説明しなさい。なお、語句はどの順番で何度用いても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。(例：ルイ16世は三部会を召集した。)

オスマン帝国

ベルギー

ボリシェヴィキ

ウィルソン

キール軍港の水兵反乱

無制限潜水艦作戦

塹壕戦

ブレスト＝リトフスク条約

十四カ条の平和原則

平和に関する布告

地 理

5 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(150点)

人々が暮らしてきた集落には、自然条件や社会条件の違いによる独自の成り立ちがあり、それらは様々な立地や形態の特徴を持っている。家屋が密集する集落は集村と呼ばれ、それとは反対に1戸ずつ家屋が孤立分散している集落を 1 と呼ぶ。歴史的にみると日本の古い集落は自然発生的に成立したものが多くと考えられる一方で、計画的に形成された集落も存在する。江戸時代の開拓集落である 2 のなかには、短冊形の区画を複数割り出して、家屋や耕地を計画的に配置するものがみられる。また、明治時代の北海道において開拓や警備の目的から形成された 3 も同様の計画村落であり、街路沿いに家屋が並ぶ 4 形態のものも多くみられる。

集落はその規模を拡大させると都市へと発展する。江戸時代の日本でも、様々な機能を持つ都市が発達したが、とりわけ城を中心に発達した 5 は領国の一大 (A) 中心地 となった。さらに、主要街道沿いに形成された交通集落である 6 や港町なども各地に発達し、それらのなかには (B) 現代都市 へと成長していったものも多い。

問1 空欄 1 ～ 6 に入るのに最もふさわしい語句を、解答欄(1)～(6)にそれぞれ記しなさい。

問2 下線部(A)に関連して、都市の中心地機能について80字以内で説明しなさい。

問3 下線部(B)に関連して、現代都市における都市の規模とその種類について、次の語句をすべて用いて400字以内で説明しなさい。なお語句はどの順番で何度用いても構わないが、それぞれ最初に使用したところには、必ず下線を施しなさい。(例：ドバイはハブ空港としての機能を持つ。)

衛星都市	巨帯都市	巨大都市	首位都市
都市機能	都市圏	都市システム	都市問題